

活動記録書

開催日： 令和5年1月5日(木) 晴れ	開催テーマ：『ゆったりと鎌倉・再発見』PART II ～新春の鎌倉、由比若宮から二の鳥居へ～
開催場所： 鎌倉	記入者：川口 寿
参加人数： 会 員 26名 準会員 0名 ビジター 1名 合 計 27名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：鎌倉駅西口時計台広場(集合)～一の鳥居～由比若宮（元八幡）～八雲神社～本覚寺～ 妙隆寺～二の鳥居～鎌倉駅 今年最初の探訪は、新春の鎌倉を鶴岡八幡宮の「一の鳥居から二の鳥居」を巡るコースであった。混雑を避ける為、人の流れと反対に巡ったおかげでゆっくりと楽しむ事が出来た。 まず御成通りを歩き、そこから若宮大路に出て、歩道橋近くの「浜の大鳥居跡」を見学する。最初の「一の鳥居」は1180年源頼朝が創建し、当初は現在の「一の鳥居」よりも鶴岡八幡宮よりにあったと言われる。1990年に発見されたこの柱痕は北条氏康によって造立されたとされ、「浜の大鳥居」と呼ばれていたようだ。由比ヶ浜へ下ると現在の「一の鳥居」が見えてくる。高さは約8.5M。徳川家綱によって1668年寄進された石造明神鳥居である。鳥居を囲うように道路の中央に設けられたスペースに入ると、そこから鶴岡八幡宮をはっきりと望むことが出来た。海岸の砂丘地帯に建てられており、由比ヶ浜から八幡宮まで一直線に続く「頼朝が幕府の基盤とした参道若宮大路」を実感することが出来た。 次に、由比若宮（元八幡）へ向かう。ここは、源頼義が源氏の守り神である石清水八幡宮を勧請し、その子義家が社殿の修理を行っている。頼朝が幕府を開いた時に社殿を移してから、「元八幡」と呼ばれるが、鎌倉における源氏の歴史は頼朝以前に始まっていた事を学んだ。通常は閑散としているのだが、参拝客が6～7名おり社殿も塗り直され、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の影響かと思われた。その後大町大路を通るが、「町屋趾」碑辺りは、中世の商業の中心地で大変賑わっていたという説明があった。大町の八雲神社でも、古からの源氏の繋がりを再認識する。源義家の弟新羅三郎義光（源義光）が京都祇園社の祭神をここに移して祀ったという。鎌倉最古の厄除け神社であり、探訪の翌日1月6日には湯立神楽が行われ新年の豊作や大漁を祈るといふ。 新年の鎌倉は七福神巡りでも賑わうが、恵比寿神を祀る本覚寺で我々も福を祈願した。頼朝が幕府の裏鬼門の方向の鎮守として建てた夷堂で、日蓮や日出上人もこの夷堂に住んだと伝わる。身延山久遠寺にあった日蓮の遺骨が分骨されており、「東身延」とも呼ばれる。1月10日には商売繁盛を願う本えびすが行われるそうで、コロナからの経済回復を願う人々で溢れかえりそうな予感がする。 最後に、小町大路にある妙隆寺を訪ねた。鎌倉幕府の有力御家人千葉常胤の子孫の別邸跡と伝えられる。この辺りは鎌倉時代日蓮説法地跡とされ、ここ妙隆寺は日蓮宗の寺で開山は日英上人である。七福神のうちの寿老人を祀り、境内の小さなお堂に鎮座されている。安全、健康、長寿の神と言われており、我々「寺社を巡る会」の参加者にもそのご利益がいただける事を祈った。 込み合う段葛を横目に、鎌倉駅に到着し新年の探訪を無事終えた。	
参加者の状況・意見など： コロナ禍の規制が無くなり、心なしか解放感とともに探訪をすることが出来た。（ガイド側では一人がコロナ陽性となり3名でのガイドとなったが。）	
次回の予定： 令和5年2月10日(金) 金沢公会堂多目的ホール 14時～ 百寺巡礼 DVD 鑑賞	